**未来へつなぐ陸羽東線！**

**陸羽東線のあゆみ**

　ＪＲ陸羽東線は、遠田郡美里町の小牛田駅から山形県新庄市の新庄駅までを結ぶ地方ローカル線です。この路線には、駅名に「温泉」や「湯」と付く駅が６つあり、「奥の細道湯けむりライン」の愛称で親しまれています。

　大正2年に小牛田駅－岩出山駅間の陸羽線が開業。その後、鳴子温泉駅（当時は鳴子駅）まで線路を延ばし、大正6年には、新庄線を編入し全線開通したことにより、「陸羽東線」に改称しました。令和9年には、全線開通110周年を迎えます。

　路線距離は94・1キロメートル、駅の数は27駅で、そのうち約半数に当たる13駅が本市にあり、公共交通の基軸となっています。

**陸羽東線の今**

　令和４年７月、ＪＲ東日本は１日当たりの平均通過人員が２千人未満だった路線を開示しました。この開示を受けて沿線自治体は、大きな衝撃を受けるとともに、存続の危機感を募らせました。本市を走る陸羽東線の「古川－鳴子温泉」や「鳴子温泉－最上」、「最上－新庄」の線区が該当しています。

　1987年度の平均通過人員は「古川－鳴子温泉」間で2,740人であり、現在の約４倍の乗車人数でした。（下表参照）

　かつて通勤・通学などの生活路線、鳴子温泉郷や山形県方面への観光路線として、多くの人に利用されてきた陸羽東線であり、現在も必要とする利用者がいる一方で、人口減少や自家用車の普及による公共交通離れ、さらには新型コロナウイルス感染症が追い打ちをかけ、存続の危機にさらされています。

陸羽東線における平均通過人員※の推移（人／日）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 区間 | 1987年度（S62） | 2020年度（R2） | 2021年度（R3） | 2022年度（R4） |
| 小牛田－新庄 | 2,411 | 629 | 660 | 687 |
| 小牛田－古川 | 8,926 | 2,818 | 3,075 | 3,331 |
| 古川－鳴子温泉 | 2,740 | 666 | 665 | 708 |
| 鳴子温泉－最上 | 456 | 41 | 44 | 44 |
| 最上－新庄 | 1,273 | 289 | 306 | 254 |

※1日1キロメートル当たりの平均乗車人数

**本市の取り組み**

　この状況を踏まえ、市民や沿線地域の皆さんと課題を共有し、陸羽東線再構築検討会議や地域懇談会を立ち上げ、利用促進に向けた検討を重ねてきました。

　令和4年度末には、提案などを取りまとめた「陸羽東線の利活用促進に関する検討報告書」を作成しました。報告書では、令和７年度には平均通過人員千人の達成を目指し、最終目標として平均通過人員2千人の数値目標を掲げています。

　「私たちの陸羽東線」として地域の鉄道を守り育てていく意識（マイレール意識）を高め、陸羽東線の存続に向けた目標を達成するために、市民・企業・行政がさまざまな視点から利用促進に取り組んでいます。

**地域の宝・陸羽東線を未来へつなごう**

**陸羽東線の利用啓発ロゴマークの作成**

市では、利用促進を図るためロゴマークを作成しました。主催事業のポスターやチラシなどに掲載し、啓発に取り組んでいます。県や企業、各種団体などにも主催事業のポスターやチラシへの掲載に協力いただいており、広域的なPRにつながっています。

　ロゴマークの使用申請は、まちづくり推進課（電話23-5069）で受け付けています。

**公共交通通勤デーの実施**

　市では毎月2回、通勤時に鉄道やバスなどの公共交通機関を利用する「公共交通通勤デー」を実施しています。この取り組みを通して、公共交通機関を利用する意識を高めるとともに、地球環境への負担軽減を図っています。

　令和5年9月29日には、一連の取り組みが評価され、「エコ通勤優良事業所」として大崎市役所が認証・登録されました。

**地域・企業などの取り組み**

　行政だけでなく、陸羽東線存続に向けた取り組みの輪が地域や企業などにも広がっています。

* ロゴマークと「陸羽東線を応援しています」の言葉を添えた啓発品を配布
* 研修事業などの行程を、マイカーやバスから陸羽東線を利用した内容に組み替えて実施
* 駅の環境美化や駅前広場などを活用したイベントの開催によるにぎわいの創出

**存続に向けて**

　存続に向けた利用促進を継続して取り組んでいくとともに、宮城・山形両県の沿線自治体との連携強化も図っていきます。

　存続の危機を乗り越えるためには、市民の皆さんの協力が欠かせません。普段は利用しない皆さんも、一度乗車してみませんか。年１回以上の乗車を目標に掲げ、「乗ろうよ！陸羽東線」を合言葉に、「地域の宝・陸羽東線」を未来へのレールへとつなぎましょう。

**Interview**

　古川学園高等学校では、地方が抱えている問題を考える「公民探究」の一環として陸羽東線の課題を取り上げ、生徒たちは高校生ならではの視点から活性化策などについて探究してきました。

　今回は、公民探究の授業を受けている生徒を代表して、普段から通学で陸羽東線を利用している古川学園高等学校2年 遠藤 さんに、陸羽東線への想いを伺いました。

　幼い頃に祖母と陸羽東線に乗って新庄まつりに行った思い出や、友人との会話を楽しみながら通学していることもあり、とても愛着を感じています。

　陸羽東線が存続の危機にあると知ったときは、在学中に廃線になってしまったら、どうやって通学すればいいのか分からず、不安な気持ちになりました。

　そのような中で、授業で陸羽東線の課題に向き合い、陸羽東線の大切さやなくなってほしくないという想いがより強くなりました。授業では、アニメとコラボレーションしたイベントの開催などによって、県内外からの乗客を増やす取り組みを考えました。活気に溢れ、みんなが楽しめる路線になってほしいです。

　今後は、乗車している側の意見を伝えたり、イベントにボランティアとして参加するなど、陸羽東線を盛り上げる活動に積極的に参加していきたいです。

写真：古川学園高等学校2年　遠藤 健大 さん

**～列車でぐるっと地域たび～「陸羽東線」沿線の紹介**

今回は、陸羽東線沿線の自治体が実施しているイベント情報などを、沿線5市町の共同広報で発信します！

ぜひ、列車を利用し、遊びに来てください！

写真：さっそうと走る「快速湯けむり号」　 撮影:第7回最上小国川写真コンテスト最優秀賞 千葉 学 氏(宮城県大崎市)、タイトル「陽春の最上路」

**美里**

美里町は、面積の約70パーセントを水田や畑が占めていて、古くから宮城県の食料基地として農業が盛んな町です。

豊かな田園風景が広がるこの町に駅舎を構える「小牛田駅」は、東北本線・陸羽東線・石巻線が交差する交通の要衝として、古くから、そして現在も多くの人に利用され続けています。安産の神様で知られる。その参拝者から親しまれる「山の神まんじゅう」は土産におすすめです。

**美里町のイベント～小牛田駅～**

**「えきフェスMISATO」**

　毎年８月に小牛田駅構内で開催される「えきフェスMISATO」では、車両の展示やレールスター試乗会、ミニＳＬなどが用意され、多くの来場者でにぎわいます。皆さんぜひ、列車を利用して美里町に遊びに来てください。

**大崎市**

　大崎市は、昨年、生誕60周年を迎えたササニシキ発祥の地であり、米どころとして知られています。市内には、ＪＲ陸羽東線の13の駅があり、実りの秋には沿線に黄金色に輝く稲穂のじゅうたんが広がります。一番のおすすめは「鳴子温泉駅－中山平温泉駅」の区間から見える全国屈指の景勝地「鳴子峡」です。紅葉期には、列車が峡谷内を減速して走行し、普段とはまた違った角度から紅葉の美しさを堪能できます。

**大崎市の観光情報～鳴子温泉駅～**

**宮城オルレ『大崎・鳴子温泉コース』**

　鳴子峡レストハウスから鳴子温泉駅までの10キロメートルのコースには、鳴子峡を中心とした大自然や「奥の細道」があり、自然や歴史を感じながら歩くことができます。ゴールの鳴子温泉駅には足湯があり、足の疲れを癒すことができます。（11月下旬～4月下旬は冬季閉鎖）

**最上**

最上町では、一年を通して季節を楽しめます。夏は「前森高原」で、乗馬体験やアウトドア、冬は「赤倉温泉スキー場」で、スキーやスノーボードを満喫できます。また、町内には、赤倉温泉、大堀温泉、瀬見温泉があり、効能の異なる温泉が楽しめます。

　宮城県境には、松尾芭蕉が宿泊したとされる国重要指定文化財「の家」や、日本海と太平洋に分岐する「分水」などの観光スポットがありますので、足を運んでみませんか。

**最上町のイベント～赤倉温泉駅～**

**「最上町新そばまつり」**

　最上町の新そばを堪能し、赤倉温泉に入浴できるイベントです。新そばまつりは毎年11月に開催され、県内外を問わず、多くの人が来場しています。香り高い「最上」の新そばを、ぜひ味わってください。

**舟形**

　舟形町の中央を流れる清流最上川は、田畑を潤すだけでなく、香り高いアユをも育て、そのアユを求めて全国から多くの釣り人が訪れます。川のほとりからは、約4500年前の土偶である国宝「縄文の女神」が出土しました。

　町には、川に沿うように陸羽東線長沢駅、東長沢駅があります。また、奥羽本線舟形駅もありますので、ぜひ列車を利用し、舟形町に遊びに来てください。

**舟形町のイベント～長沢駅など～**

**「ふながた若鮎まつり」9月7日（土曜日）～8日（日曜日）開催予定**

　町内で最大規模のイベントであるこのまつりでは、アユの塩焼きをはじめとした町の特産品の販売や友好都市からの出店に加え、大人気のアユのつかみどり体験などの催しがめじろ押しです。また、豪華ゲストによる歌謡ショー、町芸術文化協会などによる各種ステージイベントも開催します。

**新庄市**

　明治36年に、新庄初となる鉄道奥羽線が敷かれ、新庄駅が開業しました。以降、大正3年に陸羽西線が開通、同6年には陸羽東線が開通し、日本海と太平洋を結ぶ鉄路が敷かれたことにより、新庄で鉄路が交差しました。

　また、道路も国道13号と国道47号が交差することから「東北の十字路」と呼ばれる交通の要衝となり、古くから「人とモノが行き交うまち」として栄えてきました。

**新庄市の観光情報～新庄駅～**

**「『快速湯けむり号』に手を振ろう！」**

　土・日曜、祝日を中心に、仙台駅～新庄駅間で運行するこの列車は、鉄道開業当時の客車をイメージしてレトロなラッピングを施した列車です。四季折々の田園風景を眺めながら、沿線の地酒や特産品を堪能できます。陸羽東西線利用推進協議会では、湯けむり号の乗客に向けて沿線から手を振り、おもてなしをする運動を推進しています。ぜひ、手を振ってみてください！

**「山形県春の観光キャンペーン」を開催！**

　山形県では、4月1日（月曜日）～6月30日（日曜日）まで、JR東日本と連携して「山形県春の観光キャンペーン」を開催します。

　本キャンペーンでは「心ほどけるやまがた」をキャッチコピーに、地元の人とのつながりや、地域の本物に触れる体験を通して、ストーリーや「おもてなし」の心を感じ、本当の自分を見つけられるような企画を準備しています。

　山形の魅力を満喫できる体験やイベントに、ぜひ参加してみませんか。

**共同広報の取り組み**

　今回の記事は、陸羽東線の沿線である5市町が協力し、同様の内容を各自治体の広報紙に掲載しています。今後も、自治体同士が手を取り合い、地域活性化に寄与できるような情報を発信していきます。今後も注目ください！